

## 第 36 回 原子力関連学協会規格類協議会 議事録

1. 日時 平成26年3月11日（火）10:00～11:30

2. 場所 一般社団法人 日本電気協会 4階A,B会議室

3. 出席者(敬称略,順不同)

出席委員：金子議長（日本機械学会 発電用設備規格委員会 委員長），宮野（日本原子力学会 標準委員会 委員長），関村（日本電気協会 原子力規格委員会 委員長），宮口（日本機械学会 発電用設備規格委員会 副委員長），波木井（日本機械学会 発電用設備規格委員会 幹事），新田（日本電気協会 原子力規格委員会 副委員長），越塚（日本電気協会 原子力規格委員会 幹事），永田（日本機械学会 発電用設備規格委員会 原子力専門委員会 委員長）

常時参加者：増原（原子力規制庁），伊藤（原子力安全推進協会）

代理出席：大沢（電事連・富岡代理）

オブザーバ：小山田（日本機械学会 発電用設備規格委員会），大鳥（土木学会），中沢（火力原子力発電技術協会），北西（日本電機工業会），浦田（日本電機工業会），河井（日本原子力学会），橋本（原子力安全推進協会），川西（三菱重工）

日本機械学会 発電用設備規格委員会 事務局 高柳

日本原子力学会 標準委員会 事務局 室岡

日本電気協会 原子力規格委員会 事務局 荒川，鈴木，大滝，芝，田村

（26名）

4. 配付資料

資料 No.36-1 第 35 回 原子力関連学協会規格類協議会 議事録（案）

資料 No.36-2 「学協会規格整備計画52項目」の見直し結果（報告）

資料 No.36-3-1 原子力安全の基本的考え方について 第1編 別冊 深層防護の考え方

資料 No.36-3-2 「原子力安全確保のための基本的な技術要件と規格基準の体系化について」報告書（案）

資料 No.36-3-3 2014年春の年会(3/26-28)企画セッション提案書

資料 No.36-3-4 学協会規格類のリストアップへの協力をお願い

資料 No.36-4-1 日本機械学会 トピックス

資料 No.36-4-2 シビアアクシデント対応の構造設計基準提案

資料 No.36-5 第1回 日本電気協会 原子力規格委員会シンポジウム（案）

資料 No.36-6 原子力関連学協会規格類協議会 幹事会議事概要(案)

資料 No.36-7 原子力関連学協会規格類協議会 運営要綱 新旧比較表

参考資料-1	原子力関連学協会規格類協議会 名簿
参考資料-2	原子力関連学協会規格類協議会 運営要綱
参考資料-3	日本機械学会 発電用設備規格委員会 制定規格
参考資料-4	一般社団法人 日本原子力学会 標準委員会 標準の策定と技術評価に関する状況
参考資料-5	日本電気協会 原子力規格委員会 策定規格

## 5.報告事項

### (1) 委員変更,常時参加者変更及びオブザーバ出席の紹介

日本機械学会 発電用設備規格委員会について森下委員長から金子委員長へ交替,原子力専門委員会について小山委員長から永田委員長へ交替となったことの報告が,事務局からあった。また,運営要綱 第4条[会議の議長]により,議長,議長代理については,「日本機械学会 発電用設備規格委員長と日本原子力学会 標準委員会委員長が協議の上,務める」とあり,3月4日の幹事会で協議の結果,金子発電用設備規格委員会委員長と宮野標準委員会委員長が交替で議長を実施することとしたことの報告が,事務局よりあった。

事務局より,常時参加者の変更及びオブザーバ,代理出席者の紹介があった。

### (2) 前回議事録確認

事務局より,資料 No.36-1 に基づき,前回議事録(案)について紹介があり,原案通り承認された。

### (3) 報告事項

#### 1) 学協会規格の整備計画の見直しについて(報告)

機械学会,事務局より,資料 No.36-2 に基づき,学協会規格の整備計画の見直しについての中間報告があった。主な質疑・コメントは以下のとおり。

- ・本整備計画を踏まえて,各学協会が優先度の高い規格から活動を進めていくことで,情報の共有が図れたと考える。一方で,ステークホルダーとの意見交換,作業会での更なる検討をお願いしたい。

今後の活動計画について,どういう体制で進めるか,他学会との分担等,3 学協会で議論していきたい。

#### 2) 各学協会からの報告

各学協会から,以下のとおり,各学協会の活動状況の報告並びに,規格・規準の制改定状況について報告があった。

##### ) 日本原子力学会

日本原子力学会より,資料 No.36-3-1~3-4 に基づき, 深層防護の考え方(原子力安全の基本的考え方について 第1遍 別冊), 原子力安全確保のための基本的な技術要件と規格基準の体系化について, 原子力学会 2014 春の年会について, 学協会規格類のリストアップの進捗状況についての報告があった。主な質疑,コメントは以下のとおり。

- ・原子力安全確保のための基本的な技術要件と規格基準の体系化について、図 7-5 では核燃料サイクル等も入っているが、3 学協会として、サイクル施設等、スコープを広げる必要があるか考えなければいけない。また、このアプローチでは足りない。福島の実省として何ができるか、学協会で議論が必要ではないか。  
起きてしまったことに対する検討として、本アプローチを採用した。燃料に関してはこの手法で検討したい。
- ・外部ハザードに対する設計の在り方をどう考えるか、規格の体系化にあたって規制基準を含めるか、このメッセージを入れた方が良いのではないか。  
ハザードは立地の範疇であり、本報告書ではなく、土木・建築と協力して検討していきたい。また、規制基準も取り込んで分類している。

)日本機械学会

日本機械学会より、資料 No.36-4-1, 4-2 に基づき、シビアアクシデント時の構造健全性評価ガイドライン策定状況の報告があった。質疑・コメントは特になし。

)日本電気協会

日本電気協会より、資料 No.36-5 に基づき、原子力規格委員会シンポジウムの開催についての説明があった。主な質疑・コメントは以下のとおり。

- ・原子力規格委員会として初めてのシンポジウムを開催する予定。規制委員会 更田委員、前原子力委員会委員長 近藤先生、原子力学会 宮野委員長、機械学会 金子委員長等の出席をお願いしている。原子力規格委員会の次のステップへ向けて広くご意見を伺う機会としたい。

3)協議会幹事会からの報告

事務局より、資料 No.36-6 に基づいて、原子力関連学協会規格類協議会 幹事会議事概要についての報告があった。質疑・コメントは特になし。

4)協議会運営要綱の改定

事務局より、資料 No.36-7 に基づいて、原子力関連学協会規格類協議会 運営要綱の改定について提案があった。最新の組織名称へ修正するものであり、委員の合意を持って承認された。質疑・コメントは特になし。

6.その他

- ・次回の協議会開催日時は、平成 26 年 6 月 17 日(火) 10:00 からとした。

以上